

駒込病院の白血病治療のあゆみ

1986年 国内1例目となる「骨髄移植」	2008年 「移植コーディネーター(HCTC)」常駐
1994年 「骨髄バンク」との連携開始	2012年 「移植後長期フォローアップ外来(LTFU外来)」開設
2000年 「臍帯血移植」を開始	2013年 全国初の「造血幹細胞移植 推進拠点病院」認定



ひとことメッセージ

駒込病院は、昭和50年に全国から志の高い医師が集まり新設されました。その風土は今に受け継がれていて、各科の垣根がなく高いモチベーションで皆が治療にあたっています。血液内科だけでは何もできないといっても過言ではない移植の治療。各科の協力が日々感謝し、これからも総合力で患者さんを支えていきます。

がん・感染症センター 都立駒込病院

〒113-8677 東京都文京区本駒込3-18-22
Tel:03-3823-2101 (代) Web:http://www.cick.jp

【交通機関】

- JR山手・京浜東北線 田端駅下車
徒歩 約15分
- バス 約10分
「東京駅丸の内北口」行「駒込病院前」下車
「駒込病院」行「駒込病院」終点
(病院構内までバスが入ります。)
- 東京メトロ南北線 本駒込駅
徒歩 約10分

当院は、紹介・予約制です(緊急の場合を除く)。外来診療は、事前下記までご連絡ください。

外来予約専用電話 03-3823-4890
月～金 9:00～17:00
土 9:00～12:00

※本誌は縮小版です。完全版は当院で配布しているほか、当院ホームページでもご覧いただけます。

駒込病院 ロビン 検索



住友生命は東京都と【ワイドコラボ協定】を締結しています。

あなたの未来を一緒に
住友生命
本社 〒540-8512 大阪市中央区東長崎1-4-23
東京支店 〒100-8502 東京都千代田区東千代田7-18-24
(ホームページ) http://www.sumitosei.co.jp
【株主の方へ】
本会報をお手紙やお電話にて個別にお送りいたします
お問い合わせセンター 0120-307506

お困りなのは…

白血病になると骨髄の中が「がん細胞でいっぱい」に…

白血病は、「造血幹細胞」がそれぞれの細胞に分化・成熟する途中で、細胞が「がん」化してしまうことで起こります。「がん」化した細胞は無制限に増殖してしまふ性質があるため、やがて骨髄のなかは「がん」細胞でいっぱいになってしまいます。すると、正常な血液細胞を造ることができなくなります。

正常な血液が巡らなくなると、酸素が十分運ばれないため貧血などが起こり(赤血球不足)、血が止まらなかつたりあざができやすくなつたり(血小板不足)、免疫力が低下するため無防備になりちょっとしたウイルスなどに感染しやすくなる(白血球不足)など、不調が現れます。

風邪と似た軽い初期症状から短期間で進行する「急性白血病」

白血病は初期症状が発熱や顔色が悪いなど風邪や疲れにも似ているため、気づきづらいのが特徴です。自覚症状がなく、健康診断の血液検査の結果で発覚することもあります。しかし、もし発熱や貧血、体調不良に加えて、あざができやすくなつたり、出血

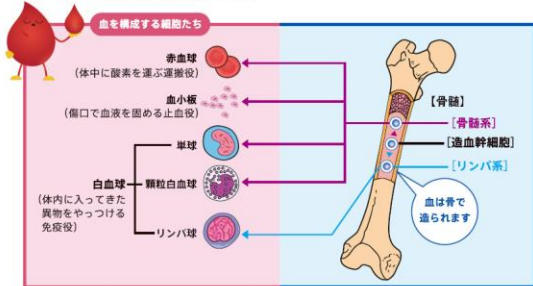
が止まりにくいと、といった症状があったら白血病などの可能性もありますので、病院で検査を受けるほうがよいかもしれません。

白血病には大きく分けて慢性と急性の2種類があり、「慢性白血病」は年月単位でゆっくり進行していきまふ、「急性白血病」は「がん」化した細胞が急速に増殖し、早いとわずか2週間あまりで深刻な状態にまで進行してしまいます。

「造血幹細胞移植」は白血病治療の切り札です！

白血病の治療には、薬物治療などのほかに「造血幹細胞(そうけつかんさいぼう)移植」という方法があります。かつては「骨髄移植」と呼ばれていたものです。近年は骨髄以外にも造血幹細胞が存在している「末梢血(まっしょうけつ)」と「臍帯血(さいたいけつ)」による移植が可能になり、3種類の造血幹細胞移植の治療法が確立されています。

この造血幹細胞移植は、血液の「がん」である白血病を、ある意味一発逆転的に根治へと向かわせられる強力な治療法です。しかし、その分リスクや負担もあり粘り強い治療が必要になります。



住友生命は東京都と【ワイドコラボ協定】を締結しています

Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center Komagome Hospital
がん・感染症センター都立駒込病院情報誌

Robin [ロビン] Vol.5

日本屈指の「白血病」治療で患者さんを支えます



Interview

Profile
大橋 一輝
Ohashi Kazuteru
東京都立駒込病院
血液内科部長
専門 血液内科、造血幹細胞移植

かつて「骨髄(こつずい)移植」と呼ばれていた白血病の治療はいま「造血幹細胞(そうけつかんさいぼう)移植」と呼ばれ、根治を狙える切り札となっています。駒込病院は全国で最初に認定された「造血幹細胞移植 推進拠点病院」として日本の白血病治療を牽引しています。

全国の先がけとなる病院として幅広い取り組みを行っています

「白血病」は血液の「がん」です。私たちの血液のなかには「赤血球(せつけきゅう)」「血小板(けつしょうばん)」「白血球(はつけきゅう)」という3種類の血液細胞が存在しています。赤血球は、体に酸素を運ぶ役割、血小板は、傷口で血液を固める止血役、白血球は、体内に入ってきた異物をやっつける免疫役として働いています。これらの血液細胞と「血しょう成分」と呼ばれる水分などによって、血液はできています。

血液細胞は骨で造られます。正しくは、骨の内側にある「骨髄(こつずい)」という空間で造られています。背骨など太い骨だけでなく、全身の骨が骨を造る工場の役割をしています。骨髄のなかには、すべての血液細胞のもとになる「造血幹細胞(そうけつかんさいぼう)」があり、それが分化して赤血球や血小板などそれぞれの血液細胞になり、血液中へと送り出されていくのです。

移植コーディネーターも常駐する全国初の「推進拠点病院」として

駒込病院は2013年に全国で初めて「造血幹細胞移植 推進拠点病院」に認定された病院です。1986年に造血幹細胞移植を開始して以来、日本の白血病治療を牽引してきました。これまでに約1,800件の移植を行い、現在も22人の血液内科医を中心に、科の枠を超えたチーム医療で年間約120件の移植手術を行っています。

また「骨髄バンク」を介した非血縁者間移植にもいち早く対応してきました。非血縁者間移植の割合が他の病院に比べて高いことは駒込病院の特徴で、2008年からは「移植コーディネーター(HCTC)」も常駐し、難しい状況の中でも、ドナー探し、移植方法の検討など最善のマッチングを探っています。

総合病院という基盤の強さと一人ひとりに寄り添う力

駒込病院は総合病院で、あらゆる科の専門医が揃っています。これは白血病患者さんにとって多くのメリットがあります。私たちが血液内科医にとっても心強い環境です。

白血病は血液の病気であり、治療中は免疫が低下するため、全身のどこにどんな合併症が起こるか分かりません。急変する状態にあわせて迅速に対応で

きる検査科、移植や治療に不可欠な輸血科、神経科、放射線科をはじめ、眼科、消化器内科、循環器内科、神経内科、呼吸器内科、歯科口腔外科など幅広い科との連携で患者さんをサポートすることが可能です。

また、移植前後の数週間を無菌室で過ごさねばならない患者さんにとって、駒込病院の看護士たちはきつと情もしい存在でしょう。様々な体調変化が起こり、精神的にも苦しくなりやすい時期。看護士たちは24時間体制で患者さんに寄り添い、時に心の中で応援しながら闘病を支えます。栄養科も無菌食で回復を促し、臨床心理士らが心のケアをしています。

退院後も粘り強い伴走で患者さんを支え続けます！

退院後の患者さんに対しては「移植後長期フォローアップ外来(LTFU外来)」が窓口となり、慢性的な合併症が起こりやすい移植後の体定期的・長期的かつ客観的にチェックして見守り続けます。

高いコーディネーター力で最善の移植を行い、モチベーションの高いチーム医療で患者さんに寄り添い、粘り強く治療していく、白血病患者さんにとって、最後のセーフティネットとなれるよう、頼りになる病院。そして、やさしい病院でありたいと思っています。

造血幹細胞移植推進拠点病院としての取り組み

駒込病院は「造血幹細胞移植 推進拠点病院」として全国で初めて認定された認定病院のひとつです。国内有数の移植実績に基づく「最先端の治療」を提供するとともに、造血幹細胞移植に携わる「医師たちの育成」にも力を入れています。また、近隣地域の医療従事者に対する研修を行うほか、「地域連携支援センター」を設置して相談や質問にも対応。「地域と連携」した造血幹細胞移植医療体制を整える役割を担っています。さらに、移植コーディネーターを配置し、骨髄の早期採取への取り組みを進めると同時に、地域における「コーディネーター支援」も行なっています。

